

# 愛知県・小牧市へ要望書を提出しました

## 愛知県に対する要望

当所が加盟する愛知県商工会議所連合会では、県内22商工会議所の要望を取りまとめ、中小・小規模企業支援の強化、交通インフラの整備などを、大村秀章愛知県知事に要望しました。当所が要望した内容は下記の通りです。

### 1. 物流を支える小牧の街づくりの観点から豪雨災害等浸水時における小牧インターチェンジの排水機能の向上について

近年の気候変動による局地的な集中豪雨等により、河川の氾濫や排水機能が追い付かないため道路が冠水するなどの被害が多発している中、小牧市が策定した「外水ハザードマップB」において小牧インターチェンジ出口は、小牧市内の外水氾濫による一番高い警戒地域となっております。

集中豪雨等により、小牧インターチェンジ出口一帯が一級河川の中下川の氾濫により浸水した場合、同インターの全面閉鎖も考えられ、企業活動に必要な製品出荷や災害時の物資の緊急的な運搬時において使用できなくなり、春日井や一宮のインターチェンジへの迂回が必要となります。

つきましては、集中豪雨等により一時的とはいえ機能しなくなる状況を防ぐ策として、小牧インターチェンジ出口浸水時の排水機能の向上を要望します。

### 2. 名古屋高速11号小牧線小牧北口の渋滞緩和策について

国道41号線名濃バイパス小牧市村中から犬山市五郎丸までの6車線化工事が2023年度までに整備され、東名・名神高速道路の小牧インターチェンジ周辺の大幅な渋滞は解消されたものの、依然として名古屋高速11号小牧線の北向き最終出口である小牧北出口では、慢性的渋滞が発生しております。また、県営名古屋空港隣接地に中部圏基幹的広域防災拠点が設置される計画ですが、名古屋高速11号小牧線は、国道41号線とともに同防災拠点運営上の重要な機能を果たす道路と位置付けることができ、有事の際はいち早く災害物資運搬等も行われると推察されます。

つきましては、沿線の企業活動への寄与と災害発生時への対応に鑑み、渋滞緩和策として名古屋高速道路を更に北へ延伸し、新たな出入口の設置を要望致します。

### 3. 県営名古屋空港の活性化と機能向上について

県営名古屋空港は、通勤機・ビジネス機の中部地区拠点空港としての機能を有するとともに、国内観光において東海地区尾張地域の玄関口としての機能の一端を担い、さらには震災等災害時に、セントレアが打撃を受けた際の代替機能も求められるなど、ビジネス、国内観光、災害時対応で大変重要な役割を有しています。また、長年要望してまいりました、北海道丘珠便就航が昨年3月に実現し、本年7月に増便されるなど、更に空港の利用が高まることが期待

されます。

こうした状況の中、空港隣接地への中部圏基幹的広域防災拠点整備計画、空港利用者の利便性向上、空港維持のために無くてはならない就航航空会社支援等の観点から以下を要望致します。

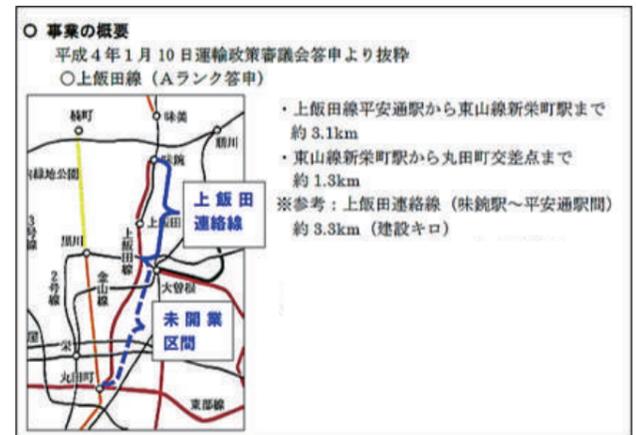
- (1) 中部圏基幹的広域防災拠点に対応した空港関連整備及び周辺道路整備
- (2) 震災等災害時に、沿岸部にあるセントレアが打撃を受けた際の代替機能の向上
- (3) 既存就航先においてニーズが高い就航路線の増便、さらに需要が見込まれる沖縄便、鹿児島便など新たな就航路線の拡大
- (4) 空港へのアクセスのさらなる充実(バス路線の増便など)
- (5) 着陸料等使用料軽減措置の延長

### 4. リニア中央新幹線開通に向けた名古屋駅へのアクセス向上について

リニア中央新幹線の開通によって、名古屋駅から東京や大阪など大都市圏へのアクセス時間が大幅に短縮されることとなります。公共交通機関である名鉄小牧線と、名古屋市営地下鉄を利用しての小牧駅から名古屋駅までのアクセスとして、50分弱(平安通駅および東山線栄駅あるいは桜通線久屋大通駅での2回の乗換えが必要)の移動時間となっております。

そこで、1992年1月の運輸政策審議会の答申で、Aランクに位置付けられている「名古屋市営地下鉄上飯田線平安通駅以南の整備(特に、名古屋駅までの乗り換え回数減少に寄与する名古屋市営地下鉄東山線新栄町駅への接続計画)」は、リニア中央新幹線の開業に向けて、名古屋駅までのアクセス向上による移動時間の短縮が図られることで、周辺地域の発展と産業振興にも寄与すると考えられます。

つきましては、地下鉄上飯田線の名古屋駅までの乗り換え回数の減少に寄与する東山線または桜通線への接続に関し、より実現性のある事業手法等により、早期に整備されるよう要望致します。



## 市への要望

2024年度の小牧市への要望書を11月26日に山下小牧市長、小島小牧市議会議長へ提出いたしました。要望項目は以下のとおりです。

### 1. 人材確保・育成に関する支援について

#### (1) 人材確保支援補助金制度の見直し

中小企業の多くは人手不足の厳しい状況に直面し、同時に働き方改革への対応、賃上げ、生産性向上を求められる経営環境にあります。小牧市では、人材の確保や育成に資する支援策や補助制度を設けていただいておりますが、就業者数の増加は頭打ちとなっており、求人難がさらに進むことが予想されます。

人材確保にむけ、2023年度に新設された表題補助金制度の補助対象となっている求人マッチングサイトは、サイトに登録した学生に対し企業がアプローチする“逆求人型”が条件となっております。“逆求人型”は、登録された学生のなかから企業が学生を選定、企業から学生へアプローチという手段ですが、登録された中に条件に合う学生がいなかったり、学生がアプローチに応じるか否かということが発生します。さらには、求人難や人材の離職等により、複数回の採用活動を行うなど採用経費が増加傾向となっております。

つきましては、表題補助金制度における「求人マッチングサイトの登録に要した費用」と「合同企業説明会の出展料」への補助金のうち、前者の費用に対し、市内企業の人材確保、育成に向けた更なる支援として以下を要望致します。

- ① 補助額(現行上限10万円、補助率1/2)の増額
- ② “逆求人型”以外の求人マッチングサイト等も補助対象とするなどの条件の拡充

#### (2) 人材育成研修費補助金制度の見直し

人材育成は、人材の定着や労働生産性の向上にもつながることが期待されており、昨今のデジタル化推進において専門的な知識や技術を習得する研修・プログラム、その他人材育成に資する研修を支援している機関や民間会社も多くあります。

小牧市新展開支援プログラムにある“小牧で働く人材支援”として拡充方針が出されている表題補助金制度において以下を要望致します。

- ① 対象となる研修機関の増加
- ② 補助額(現状、1受講上限10万円/人・補助率1/2)の増額

### 2. 小牧市伴走型支援事業による支援の継続について

小牧市中小企業相談所運営費補助金に関しては、2020年6月より、コロナ禍における中小企業への各種支援、アフターコロナを見据えた事業計画策定など、企業が抱える課題と目標達成に向けた専門家によるアドバイスを行う、「小牧市伴走型支援事業」の実施のため拡充していただきました。

当所では同支援事業のもと、コロナ禍対応に加え、特定創業支援・デジタル対応支援・商品開発支援・事業再構築

支援・事業継続力強化計画支援などを実施してまいりました。2022年に同事業の支援継続を要望したところ、コロナ禍における各種手続きに関する支援のほか、専門家の知識により多くの経営課題の解決に取り組み、事業者支援として大変有効であるとのご回答をいただいております。2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法の位置づけが2類から5類に変更され、コロナ禍前の生活に戻ってきていますが、人々の行動様式はコロナ禍前とは大きく変化しており、加えて中小企業はゼロゼロ融資の借入金返済開始の負担、長引く原材料・エネルギーコストの高騰、人手不足、記録的な円安など二重、三重に厳しい経営環境となっており、2024年度は新型コロナウイルス感染症の収束的観点から、小牧市伴走型支援事業に対する補助金額が大幅に減額となりましたが、前述のような厳しい経営環境を克服するには、今まで以上の伴走型支援が必要とされる中、当所中小企業相談所の支援業務を推進するためには、限られた補助対象経営指導員だけではマンパワー不足であり、専門知識を有する様々な分野の専門家活用が引き続き求められます。

つきましては、2025年度以降の地域経済の回復と市内地域内事業者の経営状況の立て直しのために「小牧市伴走型支援事業」の重要性、必要性について再度見直しいただき、支援事業に対する補助金増額を要望致します。

### 3. 事業継続に向けた水害対策について

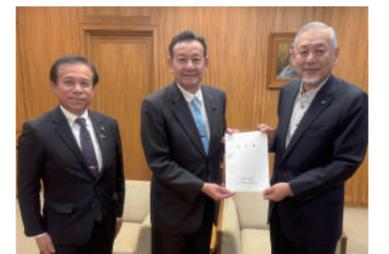
近年、地球温暖化に伴う気候変動や、都市化の急激な進展により水害が激甚化・頻発化しております。小牧市には、製造業・運送業を中心に「モノづくり愛知」を代表する多くの企業が立地しており、一度(ひとたび)、河川の氾濫や都市型浸水が発生すれば、大きな経済損失に繋がります。

つきましては、気候変動や都市化の急激な進展を踏まえ、事業継続に向けた水害対策について、以下の内容について要望致します。

- ① 一級河川薬師川(新木津用水路)の早期完了
- ② 西部地区(村中、三ツ淵、藤島)の水害対策
- ③ 南部地区(多気、下小針)の水害対策



▲山下市長(右)へ要望書を提出



▲小島小牧市議会議長(中央)へ提出